開導聖人を支えたご信者物語 第12回

20th Anniversary
佛立開導日扇聖人◎ご生誕200年慶讃

京都市中京区に本社がある「平楽寺書店」は、およそ四百年前の江戸初期の創業（会社・店を始めること）で、仏教書（仏教に関する本）を扱う出版社なんだ。店主は代々「村上勘兵衛」と名乗ったんだけど、この村上勘兵衛さんと開導聖人は仲の良い友だちだったんだよ。そこで今回は友人として開導聖人を支えた村上勘兵衛さんのお話をするね。

村上勘兵衛

嘉永元年（一八四八）四月二十八日、開導聖人は、淡路島隆泉寺の住職日耀師をお師匠さまとして得度（僧侶になる）されたんだよ。その後、宗門の学校である兵庫県尼崎の本興寺檀林（学校）に行くことになったんだ。でも檀林の教師たちは、学者であり文化人であった開導聖人に教えることは何もないと「入学拒否（ことわる）」をするんだ。

仕方なく開導聖人は千葉県にある細草檀林に入学することになったんだよ。そんなとき開導聖人のもとに、昔から仲の良かった友だちの村上勘兵衛さんと村田麦浪さんがやってきたんだ。そして二人は、開導聖人が千葉県の細草檀林（学校）に行く（入学する）ことを強く反対したんだね。

その理由として「千葉県で僧侶として勉強に励み、将来、偉い僧侶になるよりも、京都に残り悩み苦しむ人や病気の人を御題目でお救いした方がよい」というんだよ。

京都・東山、円山公園の奥にある現在の西行庵。九代目・村上勘兵衛さんは開導聖人のために西行庵を借り受け、住居を用意してくださった

右、開導聖人に細草檀林行きをやめるよう説得する九代目勘兵衛さんと村田麦浪さん。左、役所に建設許可をお願いしてくれた十代目勘兵衛さん。人生において良き友を持つ事は大事なこと!!

開導聖人は、二人の言葉を真剣に聞き、よく考えられ、千葉県の細草檀林に行くことをやめたんだ。そして、僧侶としての勉強よりも、多くの人々に御題目を伝え弘めお助けするという道を選ばれたんだね。

村上勘兵衛さんは、早速、京都・東山の双林寺境内にあった「西行庵」という所を開導聖人の「住まい」と「ご奉公の場所」として借りてくれたんだよ。

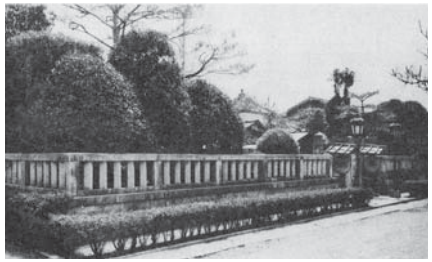
この村上勘兵衛さんは、九代目で本名を「有信」というんだけど、慶応年間（一八六五年から一八六八年までの間）に亡くなっているんだ。開導聖人は得度前は有名な学者だったから、よく書店に行かれていたと思うんだけど、その時に勘兵衛さんと知り合いになったのかもしれないね。

明治十一年（一八七八）五月二十二日、開導聖人は【本門佛立妙講一座】（本門佛立宗のお勤めのしかたを定めたもの）を平楽寺書店から発刊（図書・雑誌など印刷・出版して世にひろめること）したんだよ。この時は十代目の村上勘兵衛（九代目の息子の重信）さんが、開導聖人のお手伝いをされたんだね。

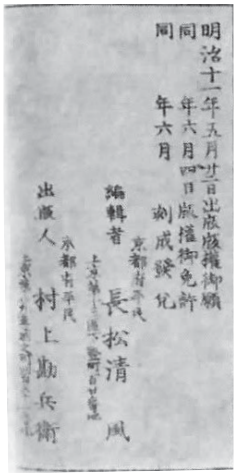
また明治十二年（一八七九）、宥清寺の前に「佛立修学所」を建てる時も、十代目の勘兵衛さんは協力しているんだ。この頃、佛立講のご信者がとても増えたんだけど、開導聖人の身の上に法難（仏さまの教を弘める者を、追い詰めたり、苦しめたりすること）が起こっていたんだ。いろいろなところから宥清寺というだけで、妨害（さまたげ）が入り、なかなか修学所の建設の許可（してもよろしいと許されること）が出なかったんだよ。

そこで、勘兵衛さんが役所にお願いしてみると、都合よく修学所の建設の許可が出たんだ。京都の町で代々続く老舗（昔から長く続いて信用ある店）の店主の応援は本当にすごいものだね。

平楽寺書店の村上勘兵衛（九代目と十代目）さんは開導聖人にとって大切な存在。やはり良き友を持つことは人生において大事なことなんだね。



明治中頃の佛立親会場（修学所）



明治十一年五月廿二日出版版權御願
同　年六月四日版權御免許
同　年六月　刻成發兌
編輯者　京都府平民　長松清風
出版人　京都市平民　村上勘兵衛

「本門佛立妙講一座」がご制定になると、すぐに印刷されご信者に配布された。版元は十代目・村上勘兵衛さん